

# 江戸時代の習俗と彫刻美

所在地：島根 3-11-9 来迎寺



## 庚申塔 四基



左側から、寛文6年(1666)・天和2年(1682)・元禄4年(1691)・正徳3年(1713)に造立されました

### 来迎寺

照涼山阿弥陀院来迎寺は、真言宗室生寺派の寺院で、創建は建久6年(1195)、天和年間(1681～84)に尊宥和尚により再建されたと伝わります。

### 庚申塔

山門を入ったところに江戸時代に造立された4基の庚申塔が立っています。庚申塔には「二世安楽」「現当安楽」と彫っており、この世(現世)とあの世(当来世)の二世の安穩を人々が願って建てたことがわかります。江戸時代前半に造立された比較的古い形式で、島根周辺の人々の習俗を伝えています。

### 庚申塔の彫刻

庚申塔には、青面金剛しょうめんこんごうが邪鬼を踏みつけている像が彫られることが多く、青面金剛は病魔や悪鬼を除くといわれています。また、庚申の「申」は「さる」とも読むことから、見ざる聞かざる言わざるの三猿さんざるが彫られることも多くみられます。こうした彫刻は庚申塔の見どころの一つです。



三猿  
(上部写真の一番左)



←青面金剛

←邪鬼

←三猿

青面金剛・邪鬼・三猿  
(上部写真の一番右)